



静岡県知事賞

## 共に生きる

三年 佐藤花菜

今年九歳になったヨークシャテリアのウィルは、生まれてたった二か月で私の家族になりました。犬を飼えることは本当に嬉しかったけれど、こんなに小さくて、かよわいのにもうお母さんから引き離してしまったのかもしれないと思うと悲しくなりました。私はまだその時幼かったけれど、たくさん愛して、絶対にこの子を守ると強く思ったことを覚えています。

先日、学校で授業中に緊急地震速報が流れました。私は、大きな音の緊急の知らせにすごく驚いて、怖くて教室にいたみんなも机の下に隠れました。結局、揺れはなく、後でそれは誤報だったと分かりました。私はその時、真つ先に家で一人で留守番をしているウィルのことを考えました。ウィルは音にとても敏感で、雷やテレビ番組の中の拳銃の音などにもびっくりして怯えることがあります。今も大きな音に驚いて怖がっているのではないか、それとも、実際に揺れなかったし、犬に携帯などで知らせが来るわけでもないから、何も知らず普通に過ごしているだけなのか、わかりませんでした。どちらにしても、確認する方法もなく、ただ心配することしかできませんでした。もし、本当に地震が起きていたら、避難の仕方也不知道だし、逃げる場所だって教えていないと思うと怖くなりました。この時は、学校から帰ると、いつも通り元気な様子で迎えてくれて安心しました。

犬と長く一緒に過ごしていると、自然とどんな時に喜んでいて、何が苦手で、今日は元気なのか調子が悪いのかが分かるようになります。楽しそうに遊んでいるのを見るときは本当に幸せな気持ちになります。あまり動かさず、元気のなさそうな時はとても心配です。そして、逆に私の気持ちに寄り添ってくれるように感じることもたくさんあります。

でも、ウィルの気持ちを理解したり、自分の愛情を伝えることができるのは目の前にいる時だけです。犬は言葉が話せません。留守番させなければならぬとき、事前に帰る時間を伝えて安心させたり、後で犬がその時のことを話したりできません。万が一、災害などが起きても、電話やメールで無事を確認し合うことができません。大切な家族だけど、私たち人間と同じようにしてあげられないこともたくさんあります。だからこそ、飼うと決めたときに預かった命を大切にするには、思いやりや想像を働かせることが大切だと思います。

私は、今回のことを通して、日頃の愛情だけでなく、ウィルと離れた場所にいる時にもこの子に何をあげられるか考えなければならぬと気づきました。毎日の一緒にいる時間を大切にし、ウィルの幸せを守るヒントを見つけていきたいです。